

平成29年度7月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成29年7月5日（水）午前11時00分～11時20分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ11社

会見内容

1. はじめに（1項目）

1. ふき紙普及促進事業について

- 鉏路市では、音別地域の特産品であるフキの皮を利用した、世界で唯一のフキを使った手漉き和紙「富貴紙」の文化伝承と普及促進に取り組んでおり、4人の職人が製品作成に取り組んできたところです。
- このたび、株式会社リリアブル様の協力を得て、コーチャンフォー鉏路店において、7月1日（土）から8月20日（日）までの間、「富貴紙」の市場調査を兼ねた試験販売を行っております。
- 市場調査については、紙質や色合いなど、消費者の好みを探るとともに、「富貴紙」に関する要望や感想などをお聞きするためのアンケートを実施しています。
- 試験販売を行う「富貴紙」は、A3判サイズで、色合い、模様や厚さの異なる数種類の「富貴紙」を取り揃えております。手漉きですので、一つとして同じ模様はありません。自分好みの1枚を見つけて、ぜひ、お使いいただきたいと思っております。
- 価格につきましては、賞状、ハガキなどに用いる厚めの紙が、1枚（税抜）800円、切り絵、工作や書道に用いる薄めの紙が1枚（税抜）500円で販売しています。
- 店内には、特設コーナーを設け、ハガキ、名刺、ランプシェードなど、「富貴紙」を使用した製品を展示し、さまざまな活用方法を紹介し、その魅力を多くの方々に伝えたいと思っております。
- 今後とも、地域の誇りとなる価値の高い和紙づくりを目指すとともに、多くの方に興味を持っていただくよう出前講習会を開催するなど、富貴紙を市内に浸透させることで、鉏路市の文化として根付かせるとともに、富貴紙の活用を通じた、鉏路市、そして音別町の知名度向上に取り組み、地域の活性化に繋げていきたいと考えております。

2. 話題提供（4項目）

1. 平成30年度クルーズ船の寄港予定について

- 来年度のクルーズ旅客船の寄港予定につきまして、現段階の状況ではございますが、概略がまとまりましたので発表させていただきます。
- お手元の資料にありますとおり、現在のところ15回の入港を予定しており、そのうち初入港の船が5隻予定されております。
- 日本船が2隻2回、外国船が11隻13回となっております。着岸する岸壁は、耐震旅客船岸壁に入港するのが11回、西港第4埠頭が4回となっております。
- 寄港する旅客船は、今後、増える可能性があります。クルーズ船による波及効果や、市民の皆様や商店街などの関係団体により、地域をあげて盛り上げて、お迎えすることが大切であると考えており、寄港予定に合わせ、さまざま取り組んでいただくため、いち早く発表をさせていただきました。
- また、今年度のクルーズ客船の寄港予定16回のうち、これまで、5回入港しており、残り11回の入港を予定しております。
- 7月9日（日）には、にっぽん丸（22,472t、166.65m、定員398人）が、耐震・旅客船ターミナルに入港します。当日は、巖島神社祭の露店会場となっておりますので、乗船客の皆様には釧路のお祭りを楽しんでいただけるものと思います。
- また昨年までは標茶高校の生徒たちに交流事業にご協力いただいていたところですが、今後は商業高校、湖陵高校、明輝高校、北陽高校の生徒たちも交流事業にご協力いただける予定でございます。
- 今後とも市民のみなさまや市内の学生、商店街のみなさま、また「釧路港おもてなし倶楽部」「釧路国際交流の会」「釧路観光ガイドの会」などの関係団体の皆様と、地域をあげてお迎えしてまいりたいと考えております。

2. 釧路湿原国立公園30周年記念事業について

- 釧路湿原国立公園は今年の7月31日で国立公園指定30周年を迎えます。
- これを記念し、釧路市、釧路町、標茶町、鶴居村で構成される実行委員会と、環境省の主催により、7月31日に記念式典と記念シンポジウムを開催いたします。
- 午前の記念式典では、釧路湿原国立公園の保護と利用に尽力されている関

係者とともに30周年を祝うほか、環境省による自然公園関係功労者環境大臣表彰が行われます。

- 午後1時から開催される記念シンポジウムでは、記念講演として「地域の人々と釧路湿原のあゆみ」と題し、外務大臣表彰を受賞した釧路国際ウェットランドセンター技術委員会委員長の新庄久志（しんしょう・ひさし）氏に、ご講演いただきます。
- 続いて、「未来につなぐ国立公園」をテーマに、釧路湿原自然再生協議会会長の中村太士（なかむら ふとし）氏にコーディネーターを務めていただき、パネルディスカッションを開催いたします。
- パネリストには、「こどもエコクラブくしろ」の中学生2名、釧路湖陵高校と標茶高校から高校生各2名、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリのレンジャー、環境省アクティブレンジャーに参加いただきます。パネリストのみなさんには、現在、釧路湿原で行っている調査や研究、体験などを紹介していただくとともに、コーディネーターの中村先生と一緒に、未来の国立公園についてお話しさせていただく予定です。
- 当日、ご来場いただいた方、先着200名の方に、釧路湿原ガイドマップなどをセットにした記念品や30周年記念のエコバックを贈呈いたします。
- また、実行委員会では、釧路湿原の野生生物をテーマとした「30周年記念 巡回写真展」を開催します。釧路市、標茶町、鶴居村、釧路町の順に、別添のチラシの日程で開催いたします。
- 本写真展については、鶴居村在住写真家の安藤誠（あんどう・まこと）氏に写真提供をいただいております。安藤氏はスミソニアン博物館主催のネイチャーベストフォトグラフィー賞を2年連続で受賞されています。厳しい自然の中でたくましく生きる野生生物の一瞬の姿をとらえた貴重な写真の数々を、安藤氏、書き下ろしの作品解説とともに、展示する予定です。
- 釧路市内展示場所の釧路フィッシャーメンズワーフMOOでは、展示初日、7月21日（金）の午前10時に、オープニングセレモニーを開催いたします。こちらでは、来場者に安藤氏の写真を配した記念クリアフォルダーを先着100名に差し上げます。
- また、配布資料にもございますとおり、多くの団体や企業が釧路湿原30周年をともに祝うべく各種行事を催していただいております。
- 地域住民の皆様のおかげで、この日を迎えることができることを誇りに感じております。みなさんとこの思いを分かちあい、そして素晴らしい歴史とともに若い世代や全国に発信していきたいと考えております。ぜひ、シンポジウムと写真展にお越しください。

3. 平成30年度釧路市重要懸案事項に係る中央要請行動について

- 国や北海道の平成30年度予算の確保に向けた中央要請行動を札幌及び東京で実施いたします。
- 釧路市単独の要望として、7月13日（木）は、札幌におきまして北海道など、翌14日（金）は北海道開発局、北海道経済産業局などに要請を行います。また、7月20日（木）には、東京におきまして、釧路地方総合開発促進期成会と共に、国会議員をはじめ、国土交通省、環境省、農林水産省などへ要請を行う予定です。
- 今回の中央要請行動では、釧路市として32項目の重要懸案事項について要望する予定であり、このうち新規要望2項目につきまして、ご説明を申し上げます。
- 1点目は、「国立公園満喫プロジェクトの推進」でございます。国に対し、阿寒国立公園における外国人来訪者数の増加を図るため、昨年12月に策定した「ステップアッププログラム2020」に掲載されている事業の着実な推進等について要望いたします。
- 2点目は、「自由貿易協定等」でございます。国（農林水産省等）に対し、TPP協定に代わる日米FTA交渉の可能性や、日欧EPA交渉の加速化など、今後における自由貿易交渉等が地域経済や暮らしに及ぼす影響が危惧されていることから、生産者、関係者等が安心して経営に取り組めるよう、財源を伴った総合的で中長期的な支援策の策定と、その確実な実施について要望いたします。
- 以上、新規項目を含め、釧路市の重要懸案事項につきまして、道や国の予算の確保が図られるよう、しっかりと要請してまいります。

4. COOL CHOICE推進事業の採択について

- 地球温暖化防止に関して、製品・サービス・行動など、あらゆる場面で温室効果ガスの削減につながる、地球の未来のための「賢い選択」を促す取り組みであります「クール・チョイス」に賛同し、本年4月1日に釧路市はクール・チョイス宣言をいたしました。
- 市の取組のほかにも、理容業（床屋）組合では「クールビズヘア」の推奨、住宅メーカーでは省エネ住宅の取り組み、家電販売店では省エネ家電の買い替えを推奨など、それぞれの特徴や強みを生かした「クール・チョイス」に賛同した取り組みを行っています。
- こうした中、釧路市は、環境省の補助事業であります「地域と連携したCO2排出削減促進事業」が採択されたところであります。

- 採択された事業では、クール・チョイスの周知を図るために、省エネ住宅やエコカーの普及啓発、エコドライブ・ウォームビズの普及を図るための事業を実施することとしております。
- なお、事業実施につきましては、民間の創意工夫による事業により実施することとし、プロポーザル方式により、実施事業者を選定いたしたいと考えております。事業者の募集については、本日から12日（水）まで受付し、8月8日（火）の審査会により決定する予定です。啓発などのさまざまな事業は本年9月から来年の2月までの間で取り組む予定です。
- また、FMくしろさんにおかれましても補助事業に採択されており、「釧路市観光大使」による「クールチョイス宣言」や番組内にて取り組みの周知など、クールチョイスの啓発等を行っていくと聞いております。FMくしろさんとさまざまな連携を図りながら、一緒にこの取り組みを推進してまいりたいと思います。
- 釧路地域は、夏季冷涼で、エコな生活ができ、賢い選択ができる自然豊かな地域であります。それら自然を守っていくということに、こう言った一つひとつの取組の全てが、結びついていくものであります。
地域の未来のために『賢い選択（COOL CHOICE）』が大切と考えておりますので、この取り組みの推進・賛同に対し、ご理解ご協力をお願いいたします。

3. その他（1項目）

1. くしろ応援ファンド活用事業の募集について

- 「くしろ応援ファンド」とは、地域資源を活用し、釧路の価値を高めることにつながる商品開発等の事業に対し、釧路市内はもとより全国各地の方々から、小口の出資をいただき事業資金を調達するという仕組みで、産学金官が一体となってその事業を支援する取り組みであります。
- このファンドの特徴としては、資金調達と同時にその事業に賛同し出資いただいた方にファンとなっただき、その方が周りの方に宣伝することで更なるファンの獲得につながり販路拡大が図られること、ファンの声を事業者へフィードバックし商品等のブラッシュアップを図り、より良い商品等の開発につながるなどがあります。
- これまでの実績として3件のファンドが組成されており、平成27年度に選定させていただいた、ミルキークラウン乳業株式会社様の「釧路幻のブラウンスイス牛スイーツファンド」においては、2種類のスイーツが開発され、市内店舗にて今年3月から販売が開始されております。
- また、株式会社フランダース様の「新スイーツブランドN（エヌ）ファンD」においては、現在、パッケージデザインの最終調整が行われており、近

日中に商品が発売されるものと伺っております。

- 昨年度は、有限会社釧路フィッシュ様の「北海道 塩いくら・塩すじこファン
- 今年度より、事業者の資金ニーズに柔軟かつスピーディーに対応するため、通年で事業募集を行うこととし、第1期募集を7月10日（月）から開始いたします。
- 昨年度同様、地域資源を活用した釧路らしさがあふれるものとなる「地域性」、事業者の思い・こだわりが全国各地の皆様のご賛同を得るものとなる「共感性」などを有することなどを事業の要件としており、事業者の皆様には、是非、このファン

4. 質問要旨

(質問)

- ・ 昨日行われた釧路総合開発促進期成会特別委員会は講演会もあり、市民のための公共交通のあり方を考える会合だったと思います。意見交換などは、デリケートな問題なので、非公開というのはやむを得ないとは思いますが、公開できる部分に関しては積極的に公開していこうというお考えはありますか。

(市長)

- ・ さまざまな情報をしっかり出していくというのは重要だと思っています。ただ、今回もJRの営業部長などに来ていただいて、勉強会という形で情報をいただいておりますが、そこで、どうなっているんだ、こうなっているんだと、という構図になるのも良くないだろうと考えています。ですから、純粋に我々は、JRの現状、花咲線と釧網線の現状がどうなっているのかということ、示された資料などを確認しながら、しっかり把握していこうということ、なぜ廃止とか維持困難という形になっているのだなどというやり取りとは根本的に違っていますので、ここは冷静に聞いていくという形で進めています。

我々も路線を残すと決めている中で、道銀地域総合研究所の大熊さんから、いろいろな視点でのお話をいただいております。具体的な形がまだ出てきていない中で、今後さまざまなことを検討していかなくてはなりません。そのために今、いろいろな情報を収集し、勉強をしている最中であると考え

ていただければと思います。

例えばこれから具体的にどういったことを進めていこうというベースができた段階で、色々と情報は皆さんに示していきながら、進めていくのが望ましいのかなというイメージで考えています。

(質問)

- ・ JRさん側が、クローズでやりたいということがあるのですか。

(総合政策部長)

- ・ 資料については、あらかじめ特別委員会限りということでいただいたもので、勉強会の中でいろんなお問い合わせをし、調べていただいたことを出してもらっています。資料の扱いは、出している側の意向も考えなければならぬという前提はあります。また、大熊さんの講演についても、首長ベースのいろいろな政策過程の話し合いの段階なので、いろいろとお考えも出していきたいという中では、公開はご遠慮いただきたいという意向もあったものです。

(質問)

- ・ 大熊さんは道が札幌と弟子屈で観光列車の話をしたときにもお話しされたと思います。多分話されている内容はそんなに変わらないと思うのですが。

(総合政策部長)

- ・ その時と若干違うことも話されたいということもあり、先ほどのような意向もあったので、前後の公開という形になったものです。

(市長)

- ・ 基本、中身をしっかりと知るための勉強会という位置づけです。乗客数についても、JRの資料だから、我々が勝手に出すという話にならないと思います。

(質問)

- ・ 今後のスケジュールはどうなりますか？

(市長)

- ・ スケジュールを作る段階には、まだ至っていません。さまざまな状況が出てくる中で考えなくてはいけないと思っています。鉄路を動脈みたいな幹線という形で考えたときに、日本の幹線ってどうなっているのか。個別でそういう形の議論をしていくのは、どうなのでしょうかとこの話を私はしています。現実的に我々はこの地域の中の路線を守っていくという思いがあり、そこでしっかりと情報をとりながら進めて行こうとしています。前提にあるのは釧網線と花咲線は残すということ。これが私たち地域、期成会含めて、そこから始まっているというものです。

この地域の路線を守っていくために、花咲線と釧網線は大きな役割を持って

いるということを認識した中で、ここを絶対残していくための活動を展開していく、検討をしていくということです。